

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度(平成31年度)	科目名	ボイストレーニング2	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	ヴォーカリストコース	開設期	後期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1単位	授業形態	実習		
教科書/教材	必要な場合のみ資料を配布する				
担当教員情報					
担当教員	平山 MiHO 金森	実務経験の有無・職種	有・ヴォーカリスト、ダンサー		
学習目的					
歌を歌う際の適切な喉や舌の使い方、発音の訓練、呼吸法を学び、自分に合った発声方法を身につけることを目的とする。発声は喉だけでなく身体全体を使う事で声量が上がり、声帯への負担も軽減される。更に、身体全体を響かせる事で歌声の中に芯が出来、安定感のある枯れることのない歌声を作ることができる。ただ筋肉を鍛えるのではなく、どういう理由で鍛え上げているのかを理解した上で各部分のトレーニングを行うことが、効果的である。					
到達目標					
毎日1時間の発声を行うとした場合の各自のトレーニングのルーティンを作る。自分の課題に対して足りない部分のトレーニング時間の割合、良い部分をより伸ばして行くための時間配分をどのように組み立てて実践するのか、きちんと説明しながら発表できることを到達目標とする。初回の授業で目標とする声質や音、課題のポイントを定め、最終回の授業で達成度を確認する。ヴォイストレーニングとは身体や響く声を作りあげると同時に、音感も鍛えるものである。簡単な童謡をアカペラで歌唱し、音程やリズムが外れる事の無いように歌い上げるトレーニングも行っていく。					
教育方法等					
授業概要	この授業はグループで行う。我々ヴォーカリストにとって「声」とは唯一無二の楽器であり、声を「響かせる」といったポイントに重きを置いてレッスンをこなしていく。その際に個々の音楽に対するジャンルや個性を偏らせず、より視野を広げる事を目指す上で、他者の声をよく聞いて分析を行う事で相乗効果を促す。ボイストレーニングの一環で身体の強化、リズムトレーニング、ヴォーカリストとしてのパフォーマンス力の向上の為にダンス教育も行う。				
注意点	社会マナーとして常識的な範囲での必要以外のスマホ等の操作は厳禁とする。ヴォイストレーニングはとても繊細で緻密なトレーニングを要している為、他者が確認を行なっている際の会話や授業とは関係ない私語は一切厳禁とする。理由のない欠席は認めない。飲料を持参する(発声器官の保湿と保護及び、風邪など空気感染症の生徒間感染を予防する)。ダンスの際には運動できる服装とシューズ、タオルを持参する。授業時数の3/4を出席しないものは評価しない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験	30%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	提出物	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 (口頭・実技)	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する			
授業計画(1回~15回)					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	前期の復習チェック(1)	一人ずつ歌い、前期で意識したことを説明したのちボイストレーニングでの目標を改めて確認できる。			
2回	前期の復習チェック(2)	一人ずつ歌い、前期で意識したことを説明したのちボイストレーニングでの目標を改めて確認できる。			
3回	チェストヴォイス(1)	喉の開閉で共鳴を理解し、支えを身につけることが出来る。			
4回	チェストヴォイス(2)	喉の開閉で共鳴を理解し、支えを身につけることが出来る。			
5回	ミックスヴォイス(1)	ハミングミックスを習得し、共鳴ボックスで引っ張ることが出来る。			
6回	ミックスヴォイス(2)	ハミングミックスを習得し、共鳴ボックスで引っ張ることが出来る。			
7回	ミックスヴォイス(3)	トゥワングを習得し、しっかりしたミックスボイスの出し方が出来る。			
8回	ミックスヴォイス(4)	トゥワングを習得し、しっかりしたミックスボイスの出し方が出来る。			
9回	リズムトレーニング(1)	4 beat 8beat 16beatの違いを身体を使って習得する。			
10回	リズムトレーニング(2)	4 beat 8beat 16beatの違いを身体を使って習得する。			
11回	トレーニングルーティン製作・復習(1)	前期後期を復習したのち、個々のヴォイストレーニングのルーティンを製作することが出来る。			
12回	トレーニングルーティン製作・復習(2)	前期後期を復習したのち、個々のヴォイストレーニングのルーティンを製作することが出来る。			
13回	発表(1)	製作した独自のルーティンを説明しながら発表出来る。			
14回	発表(2)	製作した独自のルーティンを説明しながら発表出来る。			
15回	まとめ	ここまでのトレーニングの成果を理解出来る。			